

令和4年度

# 教授細目（後期）

## <1年生>

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1. 行動科学      | 11. 小児歯科学       |
| 2. 英会話       | 12. 歯科保健指導論講義   |
| 3. 保健体育      | 13. 歯科診療補助論講義   |
| 4. 生化学       | 14. 歯科材料学       |
| 5. 口腔解剖学     | 15. 手話          |
| 6. 口腔組織・発生学  | 16. フラワーアレンジメント |
| 7. 口腔生理学     | 17. 歯科予防処置論実習   |
| 8. 病理学・口腔病理学 | 18. 歯科保健指導論実習   |
| 9. 薬理学・口腔薬理学 | 19. 歯科診療補助論実習   |
| 10. 医療倫理     |                 |

## <2年生>

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| 1. 口腔衛生学・歯科保健統計学 | 6. 栄養代謝学Ⅱ     |
| 2. 口腔外科学         | 7. 臨床検査法      |
| 3. 高齢者歯科学        | 8. 歯科予防処置論実習  |
| 4. 障害者歯科学        | 9. 歯科保健指導論実習  |
| 5. 歯周病予防処置       | 10. 歯科診療補助論実習 |

## <3年生>

1. 社会倫理学
2. 隣接医学
3. 看護保健論

一般社団法人 岡山県歯科医師会立

**岡山高等歯科衛生専門学校**

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】行動科学		担当者	鉄川 大健	実務
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(15時間)	
到達目標	保健医療現場で求められる行動科学的テーマについて考える				
回数	内 容				
1	患者とのコミュニケーション①： ヒトのコミュニケーションの在り方と患者に“安心”を与えるコミュニケーションを理解する				
2	患者とのコミュニケーション②： 患者との“ラポール”の形成と治療につなげるためのコミュニケーションを理解する				
3	集団協働場面におけるヒトの行動： 集団協働場면을模擬的に体験し、集団協働（“チーム医療”）のメリットデメリットに気づく				
4	心理学的アプローチによる医療事故防止： ヒトが集まった際に生じる行動の不思議と“チーム医療”が生み出す集団デメリットを理解する				
5	医療者としての適性と医療者の仕事とストレス： 医療者に求められる行動と医療者に起こりうる“不適応行動”について理解する				
6	健康行動変容と健康心理カウンセリング： 患者の健康行動と行動変容についての理解と“行動変容ステージモデル”を応用する				
7	ヒトの行動に潜む文化： 対人相互作用場면을模擬的に体験し、ヒトの行動に潜む“文化”に気づく				
8	患者の行動を理解するための異文化理解： 患者の行動に潜む“文化”を理解して患者の行動を理解する				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
成績評価の方法	各講義における小レポート、および期末試験				
テキスト	全国歯科衛生士教育協議会監修 心理学 医歯薬出版株式会社				
参考書	講義中に適宜紹介				

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義・実習】英会話		担当者	マーティ クリストファー ジョン	一般
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(15時間)	
到達目標	日常英会話力の修得および歯科専門英単語を学ぶ				
回数	内 容				
1	Dental Vocabulary 1				
2	Patient Instructions 1				
3	Patient Instructions 2				
4	Patient Questions				
5	Conversation Skills with Patients				
6	Health Questions				
7	Booking an Appointment				
8	Dental Vocabulary 2				
9	Review				
10	Oral Test				
11	Oral Test				
12	Oral Test				
13					
14					
15					
成績評価の方法	口頭試問：コミュニケーション能力とボキャブラリー				
テキスト					
参考書	参考書ではありませんが、講師の作成した資料を使用します。				

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義・実習】保健体育		担当者	吉田 升	一般
時期	1年次 後期	必修	単位 (時間数)	2単位 (30時間)	
到達目標	健康寿命の延伸は、少子高齢化の進む日本において急務の課題となっている。健康づくり及び体力づくりに関する知識を深め、生涯にわたって健康づくりを考えられるようになることを到達目標とする。				
回数	内 容				
1	オリエンテーション →授業ガイダンス				
2	講義 →運動と循環Ⅰ				
3	講義 →運動と循環Ⅱ				
4	講義 →運動と血圧				
5	演習 →身体活動と血圧				
6	講義 →発育と発達				
7	講義 →運動と呼吸				
8	演習 →エネルギー消費量の測定				
9	講義 →運動と筋肉				
10	演習 →筋力トレーニングの方法				
11	講義 →運動と体温				
12	講義 →運動と内分泌				
13	講義 →運動と神経・感覚				
14	講義 →運動と血液・尿				
15	講義 →健康の維持・増進				
成績評価の方法	出席状況(25%) + 提出物(25%) + 期末試験(50%)				
テキスト					
参考書					

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】生化学		担当者	神崎 浩孝	一般
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	2単位(30時間)	
到達目標	歯科衛生士は口腔という食物の入り口から健康を考える専門職である。食物として摂取された栄養素が、どのように消化・吸収され、エネルギーとして獲得されて、必要な物質が合成されるのかを理解するために、生化学の知識を習得する。				
回数	内 容				
1	オリエンテーション I編：生命活動の概要 生体の構成要素				
2	I編：生命活動の概要 生体構成成分と栄養素				
3	I編：生命活動の概要 生体構成成分と栄養素、生体における化学反応				
4	I編：生命活動の概要 糖質と脂質の代謝				
5	I編：生命活動の概要 タンパク質とアミノ酸の代謝、生体における恒常性の維持				
6	III編：栄養の基礎 栄養の基礎知識、食事摂取基準				
7	III編：栄養の基礎 栄養素の働き①				
8	III編：栄養の基礎 栄養素の働き②				
9	IV編：食生活と食品 食生活と健康				
10	IV編：食生活と食品 食べ物と健康				
11	II編：歯と口の生化学 歯と歯周組織の生化学				
12	II編：歯と口の生化学 硬組織の生化学				
13	II編：歯と口の生化学 唾液の生化学				
14	II編：歯と口の生化学 プラークの生化学				
15	II編：歯と口の生化学 まとめ				
成績評価の方法	毎回の小テスト+期末試験				
テキスト	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝 (医歯薬出版株式会社)				
参考書					

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】口腔解剖学		担当者	北原 和樹	実務（歯科医師）
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	2単位(30時間)	
到達目標	専門職として口腔および隣接する諸器官の構造と機能を理解し、口腔ケアの重要性を実践・発信できるだけの知識を修得する。				
回数	内 容				
1	口腔と周囲組織の解剖を理解する。			教科書 P2～11、P163～167	
2	口腔を構成する骨を理解する。			教科書 P11～26	
3	口腔を構成する骨を理解する。			教科書 P11～26、P161～164	
4	頭頸部の筋と作用について理解する。			教科書 P26～35	
5	頭頸部の筋と作用、顎関節の構造を理解する。			教科書 P26～37	
6	口腔周囲の脈管について理解する。			教科書 P38～49	
7	中間試験			教科書 P2～49、P161～167	
8	口腔周囲の神経について理解する。			教科書 P49～61	
9	口腔周囲の神経について理解する。			教科書 P49～61	
10	口腔周囲の神経と味覚について理解する。			教科書 P49～61、P200～207	
11	唾液腺の解剖と唾液の機能について理解する。			教科書 P62～63	
12	唾液の機能について理解する。			教科書 P62～63、P260～270	
13	咽頭と喉頭の構造と嚥下のメカニズムについて理解する。			教科書 P63～70、P233～241	
14	嚥下のメカニズムについて理解する。			教科書 P233～241	
15	顔面と口腔の発生について理解する。			教科書 P170～179	
成績評価の方法	中間試験・定期試験、授業態度				
テキスト	歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学				
参考書	配付資料				

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】口腔組織・発生学		担当者	今村 高行	実務（歯科医師）
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	2単位(30時間)	
到達目標	・顔面・口腔領域、および歯の発生と組織構造・機能を理解し、概説できる。 ・歯科衛生士業務に必要な口腔・歯の組織構造の知識を習得する。				
回数	内 容				
1	<b>発生学</b> <顔面と口腔の発生 I> 顔面・口腔の発生過程と先天性奇形の発生を学ぶ。				
2	<顔面と口腔の発生 II>				
3	<歯の発生 I> 歯の起源、発生過程について学ぶ。				
4	<歯の発生 II>				
5	<歯の発生 III> <歯の萌出と脱落>				
6	まとめ：発生学				
7	中間試験 解答解説				
8	<b>歯の構造と機能</b> 歯の組織構造と機能を学ぶ。 <歯の組織 I> エナメル質（1）				
9	<歯の組織 II> 象牙質・歯髄複合体（1）：象牙質				
10	<歯の組織 III> 象牙質・歯髄複合体（2）：歯髄				
11	セメント質 <硬組織の石灰化> <歯の脱灰と再石灰化>				
12	<b>歯周組織の構造と機能</b> 歯周組織の組織構造と機能を学ぶ。 <歯周組織 I> 歯根膜・歯槽骨				
13	<歯周組織 II> 歯肉				
14	<b>口腔組織の組織構造と機能</b> 口腔組織の組織構造と機能を学ぶ。 <口腔粘膜、唾液腺および舌 I> 口腔粘膜、舌、唾液腺				
15	まとめ：口腔組織学				
成績評価の方法	出欠状況、講義受講態度、提出物（レポートなど） 中間試験、学期末試験				
テキスト	最新歯科衛生士教本 解剖学・組織発生学・生理学 最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学 最新歯科衛生士教本 栄養と代謝				
参考書	イラストでわかる歯科医学の基礎（永末書店）				

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】口腔生理学		担当者	西田 明弘	実務（歯科医師）
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(15時間)	
到達目標	人体の基本的なメカニズムと生命現象の基本および生体の恒常性（ホメオスタシス）を理解した上で、将来歯科衛生士として不可欠な口腔の生理学的な知識を習得する。				
回数	内 容				
1	口腔生理学概論 口腔生理学とは何か、口腔生理学の概要について 歯と歯周組織① 歯の硬組織の生理、化学的性質、歯髄・歯周組織の生理、歯の動揺度、離開度について				
2	歯と歯周組織② 歯の硬組織の生理、化学的性質、歯髄・歯周組織の生理、歯の動揺度、離開度について				
3	歯と口腔、顔面の感覚 歯の感覚と口腔の感覚について				
4	味覚と嗅覚 味覚と嗅覚の役割、神経機構、味覚障害と嗅覚障害について				
5	咬合 咬合、下顎位、下顎の運動、限界運動、顎反射について				
6	咀嚼・吸啜 咀嚼の意義と咀嚼運動、咀嚼能力、歯ぎしりについて				
7	嚥下と嘔吐 嚥下・嘔吐のメカニズムについて				
8	発声・発語 発声機構の概要、声の生成、歯・口腔の病態と発音、オーラルフレイルについて				
9	プラーク① プラークによるう蝕の発症機構について				
10	プラーク② プラークによる歯周病の発症機構について 口臭 口臭の発症機構について				
11	唾液 唾液分泌機構、唾液の性状と成分、唾液の機能、唾液と疾患について				
12	口腔生理学まとめ				
13					
14					
15					
成績評価の方法		定期試験			
テキスト		歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学（医歯薬出版） 人体の構造と機能2 栄養と代謝（医歯薬出版）			
参考書		口の中がわかる 歯科口腔科学読本（クインテッセンス出版株式会社）			



# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】病理学・口腔病理学		担当者	後藤 剛緒	実務 ( 歯科医師 )
時期	1 年次 後期	必修	単位(時間数)	2 単位(30 時間)	
到達目標	病気の原因、発生の機序、進展、および転機を明らかにし、病気の予防や治療の基礎となる知見の統合				
回数	内 容				
1	病理学についての理解。病因について、内因と外因の理解 遺伝性疾患について、遺伝子の働きや、遺伝性疾患について理解				
2	循環障害について、虚血、うっ血、充血の区別を理解 閉塞性循環障害では、塞栓症、梗塞、浮腫について理解				
3	代謝障害では、変性・萎縮・壊死について学ぶ 代謝障害の種類や壊死と壊疽、壊死とアポトーシスの違いを理解				
4	増殖と修復では、創傷の治癒や再生の理解 肉芽組織や構成や機能。また異物の処理について理解				
5	炎症について、臨床症状・原因と機序・経時的变化について理解 炎症について、分類と各炎症の特徴について理解				
6	免疫について、そのメカニズムについて理解 アレルギーについて、その分類。自己免疫疾患について理解				
7	腫瘍について、定義・原因・発生机序について理解 腫瘍の組織学的特徴。腫瘍の各型について理解				
8	歯の発育異常では、種類(大きさ、歯数、形、構造、萌出、位置、咬合の異常)について理解				
9	歯の損傷と着色・付着物では、咬耗と摩耗の区別。歯の着色や変色について理解 プラークについて理解。う蝕の病因、分類とその特徴について理解				
10	象牙質・歯髄複合体の病変について、歯髄炎の原因と分類 また、臨床的特徴と組織学的特徴について理解				
11	根尖性歯周炎の病因と分類について理解 歯根肉芽種と歯根のう胞の違いについて理解				
12	歯肉炎と歯周炎の病因と分類。また、病理組織像の相違点について理解				
13	口腔粘膜病変の特徴、口腔領域のう胞、腫瘍について、歯原性・非歯原性に分類				
14	口腔癌について、前癌病変・上皮性異形成・上皮内癌について理解 顎骨の病変では、顎骨骨髓炎の分類について理解				
15	唾液腺の病変では、分類と特徴を理解 口腔領域に発生する奇形について理解				
成績評価の方法	定期試験				
テキスト	疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学(医歯薬出版)				
参考書					

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】薬理学・口腔薬理学		担当者	小山 茂樹	実務（歯科医師）
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	2単位(30時間)	
到達目標	歯科医療での薬剤の取扱いに関する基本を理解し、治療内容とそれに関連する薬物の関係を理解する				
回数	内容				
1	薬理作用と薬物の作用機序および影響を与える因子、薬物の投与と生体内運命、薬物の併用、併用、有害反応について				
2	医薬品（定義）、薬事法と関連法規、医薬品の分類（毒薬、劇薬）剤形、処方箋と調剤について				
3	中枢神経系に作用する薬物（全身麻酔薬、睡眠薬、抗不安薬、中枢神経、興奮薬、鎮痛薬）について				
4	末梢神経系に作用する薬物（局所麻酔薬、自立神経系に作用する薬物）について				
5	呼吸、循環器系に作用する薬物について				
6	止血薬、抗炎症薬について				
7	ビタミン、ホルモンについて				
8	病原微生物に作用する薬物（感染と感染症、消毒薬）について				
9	病原微生物に作用する薬物（化学療法）について				
10	悪性腫瘍治療薬について				
11	腐食、収斂作用について				
12	歯内療法に使用する薬について				
13	歯周疾患に使用する薬について				
14	口腔用薬について				
15	う蝕の予防に使用する薬について				
16	1～15までのポイント説明				
成績評価の方法	定期試験、出席および授業態度				
テキスト	最新歯科衛生士教本薬理学、新歯科衛生士教本 薬理学				
参考書					

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】医療倫理		担当者	竹下 信義	実務（歯科医師）
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(15時間)	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医の倫理について学び、医療と医療倫理の関わりについて理解を深める。</li> <li>・ 歯科衛生士としての心構えや、インフォームドコンセント・患者本位に基づいた対応などを習得して、医療現場で「倫理的な行動」ができる基礎を身に付ける。</li> </ul>				
回数	内 容				
1	倫理そして倫理学のプロムナード 医療倫理講義の流れ				
2	なぜ医療倫理を学ぶのか？：伝統的な医療倫理を学び、新しい医療倫理へ理解を深める。 Case study レポートの作り方				
3	医療倫理に関する規範と生命倫理学 I：医療倫理に関する規範と国際規範 Case study (1)				
4	医療倫理に関する規範と生命倫理学 II：生命倫理学とその問題 Case study (2)				
5	インフォームド・コンセント：インフォームド・コンセントの歴史的背景、定義と倫理的意義について Case study (3)				
6	研究と医療倫理：研究と医療倫理の関わり Case study (4)				
7	医療倫理を考える上で必要な行動：医療現場での人の行動、患者の行動、歯科医療従事者の行動 Case study (5)				
8	医療プロフェッション：専門職・医療従事者としての歯科衛生士としての心構えについて説明する				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
成績評価の方法	出欠状況、講義受講態度、Case Study レポート評価など) 学期末試験				
テキスト	歯科衛生士教本 歯科医療倫理 第2版（医歯薬出版）、配布資料				
参考書					

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】小児歯科学		担当者	寺門 恵一	実務（歯科医師）
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	2単位(30時間)	
到達目標	発育途上にある顎口腔器官の正常な発育を見守り、これを障害する疾患や異常の早期発見に努め、これらの疾患の治療や予防を行いながら、永久歯列が完成するまで管理すること				
回数	内 容				
1	小児歯科学概論		小児歯科学とは、小児歯科診療と歯科衛生士の役割		
2	心身の発育		発育の概念と分類、発育の評価、生理的年齢、器官の発育、精神的発達、小児の生理的特徴		
3	顔面頭蓋の発育		顎顔面頭蓋の発育、顎の発育		
4	歯の発育と異常		歯の発育時期と形成障害、歯の萌出と萌出異常		
5	歯列・咬合の発育と異常		歯列及び咬合の発育		
6	乳歯・幼若永久歯の特徴とう蝕		乳歯・幼若永久歯の特徴、乳歯・幼若永久歯のう蝕		
7	小児の歯科疾患		小児に見られる口腔軟組織の異常と疾患及び歯周疾患		
8	小児期の特徴と歯科的問題点		低年齢・学童期・思春期の特徴と留意点及び特徴的歯科疾患		
9	小児歯科診療体系の流れ		小児歯科におけるう蝕予防処置、母親教室		
10	患者の対応法		患児・保護者と歯科医・歯科衛生士との関係、年齢別に見た小児の行動と対応法、治療時の対応法		
11	小児歯科における診療補助の原則		小児歯科診療における補助、小児患者における麻酔法		
12	診療補助1 診査、修復、歯内療法		診査法と器具、乳歯の歯冠修復、乳歯の歯内療法（特にFC法による生活歯髄切断、根管充填法）、幼若永久歯の歯内療法		
13					
14	診療補助2 外科的処置、咬合誘導		乳歯の抜歯、小児の歯の外傷、小児の薬用量と投与方法、咬合誘導		
15	定期検診		目的とシステム		
	障害児の歯科治療		脳性麻痺（CP）・精神発達遅延（MR）・自閉症・ダウン症候群の口腔内の特徴		
成績評価の方法		期末試験			
テキスト		小児歯科学（全衛協編）		医歯薬出版	
参考書		ポイントチェック 歯科衛生士試験対策4		医歯薬出版	

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】歯科保健指導論講義		担当者	山本 道代	実務（歯科医師）
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	2単位(30時間)	
到達目標	歯科保健指導に必要な基礎的知識を習得し、患者や一般国民に対して指導を実践できる能力の獲得				
回数	内 容				
1	歯科保健指導論の概要 健康の概念・予防の概念				
2	口腔の基礎知識(口腔の機能・摂食嚥下の仕組み)				
3	う蝕と歯周病の基礎知識 (口腔内の付着物・沈着物, う蝕とは, 歯周病とは)				
4	食生活指導のための基礎知識				
5	食品とう蝕誘発性				
6	行動変容に関連する理論				
7	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理				
8	分析のためのデータ				
9	歯科衛生介入としての歯科予防処置				
10	歯科衛生科移入としての歯科保健指導				
11	口腔機能管理に関わる指導				
12	ライフステージに対応した歯科衛生介入① (妊産婦期・乳児期・幼児期・学齢期・青年期)				
13	ライフステージに対応した歯科衛生介入② (成人期・老年期)				
14	配慮を要する者への歯科衛生介入				
15	地域歯科保健活動における健康教育				
16	総まとめ				
成績評価の方法		定期試験、授業態度			
テキスト		最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」			
参考書					

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】歯科診療補助論講義		担当者	清水 裕雄	実務（歯科医師）
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	2単位(30時間)	
到達目標	歯科診療の現場において、診療内容を理解し、診療の流れに沿って歯科衛生士として活動するための知識を習得することを目的とする。				
回数	内 容				
1	1章 歯科診療補助の概念 2章 医療安全と感染予防（医療安全）				
2	2章 医療安全と感染予防（感染予防） （医療廃棄物の取扱い）				
3	3章 歯科診療における基礎知識（基礎知識） （受診の流れ） （共同動作）				
4	3章 歯科診療における基礎知識（歯科領域に必要な臨床検査）（画像検査）（薬品・薬物の管理） （ラバーダム防湿）（歯肉圧排）				
5	4章 歯科臨床と診療補助（保存修復）（歯内療法）（歯周外科治療）				
6	4章 歯科臨床と診療補助（補綴治療）（口腔外科治療）				
7	4章 歯科臨床と診療補助（歯科麻酔）（矯正治療）（小児歯科）				
8	5章 歯科診療で扱う歯科材料（印象採得） （印象材）				
9	5章 歯科診療で扱う歯科材料（模型の作製） （石膏）				
10	5章 歯科診療で扱う歯科材料（合着・接着の補助） （合着材）				
11	5章 歯科診療で扱う歯科材料（成形歯冠修復の補助）（仮封・仮着の補助）（ワックス） （コンポジットレジン）（仮封材・暫間修復材）				
12	5章 歯科診療で扱う歯科材料（金属）（セラミックス）				
13	5章 歯科診療で扱う歯科材料（その他の歯科材料、小児歯科、歯科保存、歯科矯正、歯科補綴）				
14	II 1章 主な全身疾患とその対応				
15	II 2章 周術期における口腔機能管理 II 3章 歯科訪問診療における対応				
16	歯科機器 最新の歯科事情				
17	試験				
成績評価の方法		定期試験			
テキスト		最新歯科衛生士教本：歯科診療補助論第2版、歯科材料、歯科機器（医歯薬出版株式会社）			
参考書		改訂版イラストと写真でわかる歯科材料の基礎（永末書店）			

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】歯科材料学		担当者	丸濱 功太郎	一般
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	2単位(30時間)	
到達目標	歯科材料学は、歯科医療に必要な材料および器械・器具の基礎と応用に関する学問であることから、各材料の用途、所要性質、種類、組成、硬化機構、操作方法および物性について理解し、説明できる。				
回数	内 容				
1	歯科材料の基礎知識、材料学と歯科衛生士、物質の構造、イオン結合、共有結合、金属結合、二次結合				
2	金属材料、無機材料、有機材料および複合材料の一般的性質、 歯科材料の所要性質				
3	歯科材料の物性（機械的性質、物理的性質、化学的性質、生物学的性質）、歯科医療領域の接着				
4	歯面研磨材、小窩裂溝充填材、口腔清掃用具				
5	印象材： その1、コロイド系（アルジネート印象材、寒天）				
6	印象材： その2、ゴム質系（シリコーンゴム印象材、ポリエーテル）、被弾性系、機能印象材				
7	模型材： 石こうの種類（タイプ1～5）、硬化反応（機構）、混水比、 物性				
8	合着材・接着材： その1、ポリカルボキシレート系セメント、(GIC, PCC)				
9	合着材・接着材： その2、 接着性レジンセメント、 リン酸亜鉛セメント				
10	成形修復材料： その1、 コンポジットレジン (CR)				
11	成形修復材料： その2、 グラスアイオノマーセメント (GIC)				
12	仮封材、 暫間修復材と仮着用セメント				
13	歯科用ワックス、金属およびセラミックスを主体とした歯科材料 (テキスト記述内容解説)				
14	小児歯科、歯科保存および歯科矯正にかかわる材料 (テキスト記述内容解説)				
15	歯科補綴にかかわる材料、人工歯、義歯床用、インプラント、CAD/CAM等 (テキスト記述内容解説)				
成績評価の方法	定期試験、自由作成問題等による総合評価				
テキスト	最新歯科衛生士教本 「歯科材料」 医歯薬出版 (東京)				
参考書					

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義・実習】手話		担当者	庄田 正子 小川 由佳	実務
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(15時間)	
到達目標	聴覚障害者への理解を深めると共に、医療現場において、日常会話程度の手話ができることを目的とする。				
回数	内 容				
1	講義「手話とは・コミュニケーション方法」		実技 身振り・伝言ゲーム・挨拶・自己紹介・指文字		
2	「聴覚障害者とは」		数詞・誕生日・感情表現		
3	ビデオ「私の大切な家族」 「聴覚障害者の社会生活」(1)		家族・趣味・医療用語		
4	「聴覚障害者の社会生活」(2)		仕事・住所・医療用語		
5	「聴覚障害者の社会生活」(3)		医療用語・医療会話 I		
6	「聴覚障害者の社会生活」(4)		医療会話 II・III・		
7			医療会話IV・V		
8			まとめ		
9			試験・答合わせ		
10					
11					
12					
13					
14					
15					
成績評価の方法	各自自己紹介を手話でスムーズに表現できているか 聞こえない人と医療用語を含んだ簡単な会話ができているか				
テキスト	「聴者と学ぼう!」 (財団法人全日本ろうあ連盟出版局)				
参考書					



# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義・実習】フラワーアレンジメント		担当者	土光 まり	実務
時期	1年次 後期	選択	単位(時間数)	1単位(15時間)	
到達目標	フラワーアレンジメントの基礎知識を学び、季節の色・香りを感じながら楽しく癒しの空間を演出できる作品の製作				
回数	内 容				
1	季節のテーマに合わせたフラワーアレンジメントを制作します。 以下同。				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
成績評価の方法	授業態度				
テキスト	適時用意します				
参考書	なし				

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【実習】歯科予防処置論実習		担当者	古林 智子	実務（ 歯科衛生士 ）
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	2単位(60時間)	
到達目標	歯科衛生士が行う歯科予防処置は、歯の喪失を防ぎ健康な咀嚼を維持することができるよう、歯・口腔の健康状態を保つ歯科疾患の予防を目的としている。1年後期では、その中でも重要な業務となる歯周組織検査やスケーリング・ルートプレーニングなどの専門的な知識、技術、および態度を習得する。				
回数	内 容				
1・2 3	プロービング（講義・マネキン実習）				
4・5	プロービング（講義・マネキン実習）				
6	プロービング（相互実習）				
7・8	超音波スケーラー（講義・マネキン実習）				
9・10	超音波スケーラー（マネキン実習）				
11・12	超音波スケーラー（マネキン実習）				
13・14	超音波スケーラー（相互実習）				
15・16	キュレット型スケーラー（講義・マネキン実習）				
17・18	グレイシー型キュレット、エキスポローラー（講義・マネキン実習）				
19・20	シャープニング キュレット型スケーラー（グレイシー型 / ユニバーサル型）				
21・22	プロービング ～ スケーリング（シッケル型スケーラー）（マネキン実習）				
23・24	プロービング ～ スケーリング（シッケル型スケーラー）（マネキン実習）				
25・26	プロービング ～ スケーリング（グレイシー型キュレット）（相互実習）				
28・29	プロービング ～ スケーリング（グレイシー型キュレット）（相互実習）				
27・30	まとめ				
成績評価の方法	期末試験 実習態度 提出レポート				
テキスト	【最新歯科衛生士教本】 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）				
参考書					

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【実習】歯科保健指導論実習		担当者	藤原 桂子	実務（ 歯科衛生士 ）
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(30時間)	
到達目標	口腔清掃法の重要性を知り、効果的な口腔清掃方法の知識を習得、実践し、考察する。				
回数	内 容				
1	補助的清掃用具①				
2	補助的清掃用具②				
3	歯磨剤①				
4	歯磨剤②				
5	口腔ケア用具（粘膜ブラシ・スポンジブラシ・クルーナブラシ・舌ブラシ・その他）				
6	口腔ケア用具実習（保湿剤・粘膜ブラシ・スポンジブラシ・クルーナブラシ・舌ブラシ）				
7	電動歯ブラシ・音波歯ブラシ・超音波歯ブラシの種類と特徴				
8	電動歯ブラシ・音波歯ブラシ・超音波歯ブラシ・ジェット水流洗口器 実習①				
9	電動歯ブラシ・音波歯ブラシ・超音波歯ブラシ・ジェット水流洗口器 実習②				
10	洗口液・洗口剤				
11	相互実習①／術者磨き				
12	相互実習②／術者磨き				
13	相互実習①／義歯用ブラシ				
14	相互実習②／義歯用ブラシ				
15	まとめ				
成績評価の方法	定期試験・授業態度・実習態度・出欠・提出物・身だしなみ				
テキスト	最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 歯科材料				
参考書	最新歯科衛生士教本 保健生態学 かとうひさこブラッシングガイド 改訂歯ブラシ辞典				

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【実習】歯科診療補助論実習		担当者	藤原 桂子	実務（ 歯科衛生士 ）
時期	1年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(30時間)	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科材料の特徴、種類、用途を理解する。</li> <li>・ 手順通りにスタディモデルを作成し、考察することができる。</li> </ul>				
回数	内 容				
1	授業オリエンテーション 印象材の取り扱い①				
2	印象材の取り扱い②				
3	印象材の取り扱い③				
4	印象材の取り扱い④				
5	石膏の取り扱い①				
6	石膏の取り扱い②				
7	ラバーダム防湿①				
8	ラバーダム防湿②				
9	スタディモデル作製 ラバーダム防湿				
10	スタディモデル作製 ラバーダム防湿				
11	スタディモデル作製 ラバーダム防湿(予備)				
12	スタディモデル作製				
13	スタディモデル作製				
14	スタディモデル作製				
15	スタディモデル作成 まとめ				
成績評価の方法	定期試験・授業態度・実習態度・提出物・身だしなみ・スタディモデル				
テキスト	歯科診療補助論テキスト、歯科機器テキスト、歯科材料テキスト				
参考書	イラストと写真でわかる 歯科材料の基礎				

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】口腔衛生学・歯科保健統計学		担当者	城山 博	実務（歯科医師）
時期	2年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(15時間)	
到達目標	歯と口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みを学修する。具体的には患者および地域における歯科疾患の予防とコントロールの手法、それに必要な情報収集、診断、活動計画立案、成果評価について修得する。				
回数	内 容				
1	歯科疾患の疫学的特性 ①歯科疾患の疫学的特徴を説明できる。②う蝕の疫学特性、歯周疾患の疫学特性について。				
2	調査と統計（1） ①標本調査の必要性和無作為抽出方法を説明できる。②歯科疾患実態調査の概要を説明できる。 ③主要な歯科保健に関する国家統計を説明できる。				
3	調査と統計（2） ①スクリーニング検査の意義と有効性の判定指標を説明できる。②度数分布表とヒストグラムを説明できる。 ③基本統計量を分類し、それぞれの特徴を説明できる。④正規分布の特徴を説明できる。				
4	調査と統計（3） ①平均値の推定を説明できる。②統計的検定法の使い分けを説明できる。③質問紙調査の概要を説明できる。				
5	地域歯科保健 ①地域歯科保健活動の進め方を説明できる。②健康日本21の意義と目標を説明できる。 ③歯科口腔保健に関する法律の意義と目標を説明できる。				
6	母子歯科保健 ①妊産婦と乳幼児の口腔の特徴を説明できる。②幼児の法定歯科健康診査を説明できる。				
7	学校歯科保健 ①学校保健の領域を分類できる。②学校三師の役割を説明できる。 ③学校歯科健康診断と事後措置を説明できる。				
8	産業歯科保健 ①産業保健の仕組みを説明できる。②職業性歯科疾患の特徴と予防を説明できる。 ③職域における健康保持増進対策を説明できる。				
9	成人・高齢者・要介護者・障害者の歯科保健 ①要介護者・障害者の歯科保健を説明できる。②災害時の歯科保健を説明できる。 ③国際歯科保健を説明できる。				
10	まとめ講義（練習問題）				
11					
12					
13					
14					
15					
成績評価の方法		学期末定期試験 100%			
テキスト		口腔衛生学ー口腔保健統計を含むー 学建書院			
参考書		特になし			

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】口腔外科学		担当者	森田 巨樹	実務（歯科医師）
時期	2年次 後期	必修	単位（時間数）	2単位（30時間）	
到達目標	顎口腔領域の疾患とその病態が理解できること。 口腔外科診療の理解と全身状態の観察ができること。				
回数	内 容				
1	口腔外科学概論				
2	先天異常と変形 口唇口蓋裂 顎変形症				
3	粘膜損傷と顎顔面外傷				
4	顎関節疾患				
5	口腔粘膜疾患①				
6	口腔粘膜疾患②				
7	口腔粘膜疾患③				
8	顎口腔領域の炎症				
9	嚢胞性疾患				
10	腫瘍性疾患				
11	唾液腺疾患				
12	神経性疾患				
13	口腔外科診療論①				
14	口腔外科診療論②				
15	総括と最近の話題				
成績評価の方法	期末考査				
テキスト	「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」：医歯薬出版 口腔外科学問題集（講師より配布）				
参考書	「口の中がわかる」クインテッセンス出版				

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】高齢者歯科学		担当者	黒木 祐二	実務（歯科医師）
時期	2年次 後期	必修	単位(時間数)	2単位(30時間)	
到達目標	高齢者における口腔の健康維持の為に必要な知識・技術を習得する。				
回数	内 容				
1	高齢者の特性及び社会的問題・環境を理解する。				
2	高齢者を支える保健・医療・福祉を知る。				
3	高齢者にみられる全身的疾患と口腔疾患との関連を学ぶ。				
4	高齢者の口腔領域の特性を知る。				
5	摂食・嚥下機能を理解する。				
6	高齢者の口腔領域の疾患を学ぶ（齶蝕・歯周疾患・粘膜疾患）				
7	高齢者の口腔領域の疾患を学ぶ（摂食・嚥下障害・口腔乾燥・その他）				
8	高齢者に対する薬剤又その副作用等について理解する。				
9	高齢者に対しての歯科診療時の問題点と留意点について学ぶ。				
10	高齢者との接し方及び介護技術について理解する。				
11	要介護高齢者の現状及び特性を学ぶ。				
12	介護保険制度を理解する。				
13	高齢者の歯科保健指導の基本的知識と流れを理解する。				
14	訪問歯科保健指導の基本的知識と流れを理解する。				
15	訪問歯科保健指導の業務記録について学ぶ。				
成績評価の方法	定期試験、中間テスト、小テスト、授業態度				
テキスト	最新歯科衛生士教本 高齢者歯科				
参考書					

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】障害者歯科学		担当者	真鍋 るい子	実務（歯科医師）
時期	2年次 後期	必修	単位(時間数)	2単位(30時間)	
到達目標	近年歯科医院の来院機会が多くなっている老人を含めた色々な障害を持った患者さんに、臨床現場で何に気をつければよいか、どう接すればよいかなど幅広い知識をつけていきます。小児歯科、高齢者歯科、介護と重なる部分が多くあり、国試でも障害者への知識だけでなく多職種連携や診療対応の複合問題として出ることが多くなっています。科目横断で一人の患者さんにどう接していくかを身につけていきます。				
回数	内 容				
1	第1章 障害者とは、今置かれている現状はなど				
2	第2章 障害各論 神経発達症群 1. 知的能力障害（知的発達障害）について種類、原因、症状など				
3	第2章 障害各論 神経発達症群 2. 自閉症スペクトラム 3. 注意欠如・多動症 4. 限局性学習症				
4	第2章 障害各論 運動障害 肢体不自由について種類、原因、症状など				
5	第2章 障害各論 感覚障害・言語障害・精神障害について				
6	第2章 障害各論 内部障害について種類、原因、症状など				
7	第3章 コミュニケーション法と行動調整法				
8	第3章 コミュニケーション法と行動調整法				
9	第4章 健康支援と口腔管理				
10	第5章 リスク評価と安全管理 第6章 摂食・嚥下の基礎				
11	第6章 摂食・嚥下と口腔管理、栄養管理、評価法				
12	第6章 摂食・嚥下と口腔管理、栄養管理、評価法				
13	第6章 介護食 摂食嚥下機能訓練				
14	第6章 介護食 摂食嚥下機能訓練				
15	第7章 地域連携 総まとめ				
成績評価の方法	後期試験で評価を出します				
テキスト	医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第2版				
参考書	最新歯科衛生士教本より 歯科衛生学総論 歯科予防処置論・歯科保健指導論 小児歯科 高齢者歯科 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 口腔外科・歯科麻酔 保健生態学 歯科補綴 歯科診療補助論				



# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】歯周病予防処置		担当者	藤井 龍平	実務（歯科医師）
時期	2年次 後期	必修	単位(時間数)	2単位(30時間)	
到達目標	総論として、DHの法的位置づけを知り、歯科予防処置論、歯科保健指導論の定義並びに健康の定義を説明できる様に、同時フィールド活動に於て各状況に対応できる(考える力)様に成長することを目的とする。				
回数	内 容				
1	【総論】 <1章> 歯科予防処置論・歯科保健指導論の概要 1. 定義 2. 考え方 3. 法的位置づけ				
2	歯科予防処置の内容、歯科保健指導の内容 4. 健康の概念 (1)定義; WHO (2)日本の健康増進施策				
3	5. 予防の概念 第1次、第2次、第3次予防(う蝕予防及び歯周病予防レベル)				
4	【基礎知識】 <1章> 口腔の基礎知識 1. 正常な口腔 2. 歯周組織 3. 歯冠と歯根の形態				
5	4. (1)口腔の機能 (2)摂食・嚥下の仕組み				
6	<2章> う蝕と歯周病の基礎知識 1. 口腔内の付着物・沈着物 2. プラーク				
7	3. 歯石 4. う蝕 5. 歯周病				
8	<3章> 予防処置・保健指導のための基礎知識 1. 行動変容の要素とそのステップ				
9	2. 食生活指導の基礎(特に食品とう蝕誘発性)				
10	3. 咀嚼と食品(定義、目的、仕組み、機能の発達・効用)				
11	唾液の重要性(主な成分とその働き)				
12	フッ化物の応用(基礎知識、代謝、毒性、応用法、保健指導)				
13	小窩裂溝充填塞法(フィッシャーシーラント)				
14	ライフステージにおける歯科衛生介入(老年期、要介護高齢者、障害者)				
15	【臨地・臨床実習】 地域歯科保健活動 臨地実習の実践例を通して学ぶ				
成績評価の方法	定期試験				
テキスト	歯科予防処置論・歯科保健指導論				
参考書	歯の解剖学、う蝕の予防処置、歯科病理学 etc				

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】栄養代謝学Ⅱ		担当者	下田 裕恵	一般
時期	2年次 後期	必修	単位(時間数)	2単位(30時間)	
到達目標	食生活に栄養の知識を活かし、健康の保持・増進、疾病の予防・治療が図れる。またライフステージ別に適切な食生活指導が行えるようになる。				
回数	内 容				
1	栄養素のまとめ				
2	食生活改善の取り組み（「国民健康・栄養調査」「健康日本21（第2次）」				
3	食生活改善の取り組み（「食事バランスガイド」「食生活指針」「食育基本法」）				
4	年代別食生活の特性 乳児期の身体的特徴と栄養				
5	年代別食生活の特性 乳児期の身体的特徴と栄養 演習				
6	年代別食生活の特性 幼児期の身体的特徴と栄養				
7	年代別食生活の特性 学童期の身体的特徴と栄養				
8	年代別食生活の特性 思春期の身体的特徴と栄養				
9	年代別食生活の特性 成人期の身体的特徴と栄養				
10	年代別食生活の特性 妊娠・授乳期の身体的特徴と栄養				
11	年代別食生活の特性 高齢期の身体的特徴と栄養				
12	食の安全について（食品衛生・アレルギー）				
13	食品表示について（保健機能食品、栄養表示の使い方）				
14	食品の成分と分類				
15	演習・まとめ				
成績評価の方法	定期試験、提出物、授業態度				
テキスト	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）				
参考書	食品成分表2015（女子栄養大学）				

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】臨床検査法		担当者	竹林 俊明	実務（歯科医師）
時期	2年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(15時間)	
到達目標	患者の病態を理解し、その状態を把握するための臨床検査の基本的知識と患者に対応する知識と技能を修得することを目的とする。				
回数	内 容				
1	検査の必要性と検査方法の種類。検査成績の表し方、基準値(正常値)。				
2	生体検査（バイタルテスト、心機能検査、肺機能検査等）の意義、測定方法と関連する全身疾患。				
3	血液検査—血球、凝固、血液型検査を理解する。				
4	全身疾患と関連する生化学検査の種類、評価。				
5	感染症（細菌）検査、病理検査—概要とどのような時に必要かを考える。				
6	口腔領域の検査				
7	摂食・嚥下障害のスクリーニングテスト				
8	その他の全身疾患と歯科治療上の注意事項 総まとめ。				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
成績評価の方法	試験、授業態度				
テキスト	最新歯科衛生士教本 臨床検査（医歯薬出版）				
参考書					

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【実習】歯科予防処置論実習		担当者	古林 智子	実務（ 歯科衛生士 ）
時期	2年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(30時間)	
到達目標	歯科衛生士が行う歯科予防処置は、歯の喪失を防ぎ健康な咀嚼を維持することができるよう、歯・口腔の健康状態を保つ歯科疾患の予防を目的としている。2年後期では、その中でも重要な業務となるフッ化物の応用や小窩裂溝填塞などの専門的な知識、技術、および態度を習得する。				
回数	内 容				
1	齧蝕活動性試験 デントカルト SM・RD テスト・CAT 21 テスト				
2	〃				
3	齧蝕活動性試験 デントバフストリップ・CAT21Buf 結果検討				
4	〃				
5	フッ化物の応用（講義）				
6	フッ化物の応用 フッ化物溶液・ゲル(ゼリー)の作り方(調整)実習				
7	フッ化物の応用 フッ化物局所塗布（相互実習）				
8	〃				
9	フッ化物の応用 フッ化物洗口（相互実習）				
10	〃				
11	フッ化物の応用 フッ化物 トレー法（実習）： サンスターセミナー				
12	〃				
13	小窩裂溝添塞法（マネキン実習）				
14	〃				
15	フッ化ジアンミン銀 の手指および布への着色・脱色実習 まとめ				
成績評価の方法	期末試験 実習態度 提出レポート				
テキスト	【最新歯科衛生士教本】 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬） 歯科衛生士のための齧蝕予防処置法 第2版				
参考書					

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【実習】歯科保健指導論実習		担当者	有田 泰子	実務（歯科衛生士）
時期	2年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(30時間)	
到達目標	歯科衛生過程の考え方を学び、これまでに習得した知識・技能・態度をもとに歯科衛生過程を実践できる技術を修得する。				
回数	内 容				
1	歯科衛生過程とは①				
2	歯科衛生過程とは②				
3	衛生士理論・医療面接				
4	歯科衛生アセスメント①（情報収集）				
5	歯科衛生アセスメント②（情報整理①）				
6	歯科衛生アセスメント③（情報整理②）				
7	歯科衛生アセスメント④（情報の解釈・分析）				
8	歯科衛生診断				
9	歯科衛生計画（歯科衛生計画の立案）				
10	歯科衛生介入・評価・記録（書面化）				
11	演習：歯科衛生過程 アセスメント①				
12	演習：歯科衛生過程 アセスメント②				
13	演習：歯科衛生過程 診断				
14	演習：歯科衛生過程 計画立案				
15	演習：歯科衛生過程 介入・評価				
成績評価の方法	定期試験・出席状況・授業態度・提出物				
テキスト	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 よくわかる歯科衛生過程				
参考書	歯科衛生過程 HAND BOOK・事例でわかる歯科衛生過程				

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【実習】歯科診療補助論実習		担当者	大島 詩織	実務（歯科衛生士）
時期	2年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(30時間)	
到達目標	・成形歯冠修復の用途・取り扱い・修復の手順を理解し、直接修復・間接修復を実施することができる				
回数	内 容				
1	成形歯冠修復の補助①				
2	成形歯冠修復の補助②				
3	成形歯冠修復の補助(隔壁・歯冠分離)①				
4	成形歯冠修復の補助(隔壁・歯冠分離)②				
5	成形歯冠修復の補助(実習)①				
6	成形歯冠修復の補助(実習)②				
7	成形歯冠修復の補助(実習)③				
8	成形歯冠修復の補助(実習)④				
9	歯科麻酔時の診療補助				
10	歯周パック				
11	間接修復の補助(実習)①				
12	間接修復の補助(実習)②				
13	間接修復の補助(実習)③				
14	間接修復の補助(実習)④				
15	まとめ				
成績評価の方法	定期試験、授業態度、提出物、身だしなみ				
テキスト	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 最新歯科衛生士教本 歯科材料, 最新歯科衛生士教本 歯科器械				
参考書	イラストと写真でわかる 歯科材料の基礎				

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】社会倫理学		担当者	竹島 尚仁	一般
時期	3年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(15時間)	
到達目標	社会の中で起こるさまざまな事象を倫理的観点から考察し分析できるようになる。				
回数	内 容				
1	倫理とは				
2	倫理的諸問題の類型(1)				
3	倫理的諸問題の類型(2)				
4	生命の価値				
5	死への恐れ				
6	人生の意味				
7	功利主義				
8	義務論				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
成績評価の方法	レポート80%、コメント20%で総合的に評価する。				
テキスト	なし。代わりにプリントを配布する。				
参考書	S・ブラックバーン『ビーイング・グッド 倫理学入門』(晃洋書房)、また随時参考図書を紹介する。				

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】隣接医学		担当者	更科 俊洋	実務（医師）
時期	3年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(15時間)	
到達目標	内科学と歯科領域の関連についての認識を高める。				
回数	内 容				
1	医学概論：内科学概論，内科診断学，内科症候学				
2	内科学概論：内科診断学，内科治療学，内科症候学				
3	内科学概論：内科治療学（循環器疾患，代謝疾患，内分泌疾患など）				
4	内科学概論：内科治療学（循環器疾患，代謝疾患，内分泌疾患など）				
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
成績評価の方法	小テストなど				
テキスト	医学概論（改訂7版）コメディカルのための専門基礎分野テキスト 中外医学社 歯科衛生士のための全身疾患チェアサイド BOOK 基礎知識・患者の生活上の注意点・口腔との関連・診療時の TO DO クインテッセンス出版株式会社				
参考書					



# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】隣接医学		担当者	平松 順一	実務（医師）
時期	3年次 後期	必修	単位(時間数)	1単位(15時間)	
到達目標	内科と歯科との関連についての認識を高め学習法を学ぶ				
回数	内 容				
1	各論(感染症、呼吸器)				
2	〃(消化器、代謝、内分泌)				
3	〃(泌尿器、運動器、神経)				
4	〃(その他)				
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
成績評価の方法	レポート(講義に関して)				
テキスト	医学概論(改訂7版) コメディカルのための専門基礎分野テキスト 中外医学社 歯科衛生士のための全身疾患チェアサイド BOOK 基礎知識・患者の生活上の注意点・口腔との関連・診療時の TO DO クインテッセンス出版株式会社				
参考書					

# 令和4年度 授業計画

授業科目	【講義】看護保健論		担当者	河野 恵子 三宅 和代	実務
時期	3年次 後期	必修	単位(時間数)	2単位(30時間)	
到達目標	歯科衛生士として知っておきたい看護の基礎知識や基礎技術を習得する。				
回数	内 容				授業形態
1	看護の定義 看護の役割と機能				講義
2	看護の対象の理解				講義
3	健康のとらえ方				講義
4	医療面接と医療情報				講義
5	フィジカルアセスメントの概要				講義
6	バイタルサインの測定				講義
7	フィジカルアセスメント・バイタルサインの測定の実際				演習
8	生体情報のモニタリング				講義
9	救命救急処置				講義
10	糖尿病・高血圧				講義
11	脳血管障害・てんかん				講義
12	呼吸器疾患（過換気症候群・気管支喘息）				講義
13	虚血性心疾患・アナフィラキシーショック				講義
14	精神疾患				講義
15	まとめ				講義
成績評価の方法	定期試験（ミニテスト含む）および受講態度				
テキスト・参考書					
学習上の留意点	看護とは何かを学び、歯科衛生士として、生かせる看護の知識・技術を習得しましょう。				